

長野工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	実務訓練
科目基礎情報						
科目番号	0032		科目区分		専門 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科	環境都市工学科		対象学年		4	
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	参考書：実務訓練の手引					
担当教員	永藤 壽宮 ,柳澤 吉保 ,遠藤 典男,古本 吉倫,西川 嘉雄,松下 英次,酒井 美月,轟 直希 ,奥山 雄介,浅野 憲哉					
到達目標						
実務訓練を通じて専門分野に関連した実践的な業務に携わり、業務の概要を説明できることとで (G-2) の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	企業・官庁などにおける学外実習を通じて、専門分野に関連した業務を積極的に行い、その中より実践的な技術感覚を体得するとともに、技術者として必要な適応力を養う。また企業・機関などでの実習体験から、今後の学生生活での学習意欲の向上と、進路決定の一助とする。					
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題をだす。 ・適宜、レポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること。					
注意点	<成績評価> ・実務訓練先からの実習証明書（60%），提出された報告書（40%）の合計100点満点で（G-2）を評価し、各項目で6割以上獲得した者をこの科目の合格者とする。不合格者の成績は、合計が60点以上の場合は59点とする。 <オフィスアワー> ・水曜日15:00～17:00、環境都市工学科、担当教員室。ただし、会議などで不在の場合があります。 <先修科目・後修科目> ・ <備考> ・実習先は、原則として帰省先から通勤可能な範囲とする。7月に各自保険に加入するが、期間により費用は異なる。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	履修の説明		インターンシップの意味を理解する。	
		2週	インターンシップ事業1 説明会		実習受け入れ企業・機関の方に、実習する上で必要なことを説明していただき、実習テーマと受け入れ機関の選択に対する研究を行う。	
		3週	インターンシップ事業2 研修会（1）		実習の前に実務訓練への心構え、事前打ち合わせについて学び、受け入れ企業・機関の方と打ち合わせを行うことができる。	
		4週	インターンシップ事業2 研修会（2）		実習の前に実務訓練への心構え、事前打ち合わせについて学び、受け入れ企業・機関の方と打ち合わせを行うことができる。	
		5週	インターンシップ事業3 実務訓練（1）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		6週	インターンシップ事業3 実務訓練（2）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		7週	インターンシップ事業3 実務訓練（3）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		8週	インターンシップ事業3 実務訓練（4）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
	2ndQ	9週	インターンシップ事業3 実務訓練（5）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		10週	インターンシップ事業3 実務訓練（6）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		11週	インターンシップ事業3 実務訓練（7）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		12週	インターンシップ事業3 実務訓練（8）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		13週	インターンシップ事業3 実務訓練（9）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		14週	インターンシップ事業3 実務訓練（10）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		15週	インターンシップ事業3 実務訓練（11）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	インターンシップ事業3 実務訓練（12）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	
		2週	インターンシップ事業3 実務訓練（13）		7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。	

		3週	インターンシップ事業3 実務訓練 (14)	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。
		4週	インターンシップ事業3 実務訓練 (15)	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。
		5週	インターンシップ事業3 実務訓練 (16)	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。
		6週	インターンシップ事業3 実務訓練 (17)	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。
		7週	インターンシップ事業3 実務訓練 (18)	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。
		8週	インターンシップ事業3 実務訓練 (19)	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。
	4thQ	9週	インターンシップ事業3 実務訓練 (20)	7月下旬～8月下旬に5日以上の実習を行う。実践的な技術感覚を養い、積極的に実習を行うことができる。
		10週	インターンシップ事業4 報告会 (1)	実習の内容や実習で得られたこと、後輩へのアドバイスを中心とした、報告書を作製することができる。また、報告書の内容を解り易く説明することができる。
		11週	インターンシップ事業4 報告会 (2)	実習の内容や実習で得られたこと、後輩へのアドバイスを中心とした、報告書を作製することができる。また、報告書の内容を解り易く説明することができる。
		12週	学科内での報告会	実習の内容や実習で得られたこと、後輩へのアドバイスを中心とした、報告書を作製することができる。また、報告書の内容を解り易く説明することができる。
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
配点	0	0	0	0	100	100